

おか
岡 遺跡発掘調査成果説明会資料

調査主体：滋賀県教育委員会

調査機関：財団法人 滋賀県文化財保護協会

1. 調査の経緯

岡遺跡は栗東市目川・岡・下戸山に所在する、古代の地方官衙の遺跡です。今回は県道六地蔵草津線緊急地方道路整備事業による道路の拡幅工事に伴い 4 月から発掘調査を実施しています。

岡遺跡では大規模な建物跡の周囲を長い建物跡が方形に囲んだ遺構が検出されており、奈良時代・平安時代栗太郡の役所である郡衙と考えられます。また、岡遺跡のなかには墳長約 90m の帆立貝形前方後円墳である地山古墳、南隣には墳長が 50m を超える下戸山古墳が、その南にはこのあたりに勢力をもっていた小槻山君の始祖を祀る小槻大社があるなど、古代の栗太郡を考える上できわめて重要な場所です。

2. 調査の概要

今回の調査区では、地山古墳を中心として周囲に散在する地山古墳群の一つである 2 号墳の周濠の一部、古墳時代後期の古墳の周濠と考えられる溝が見つかったほか、栗太郡衙を構成する建物跡の一部と郡衙で行われた祭祀にかかわると思われる土器の埋納土坑が見つかりました。

3. 調査の成果

地山古墳群 2 号墳

T 5 と T 6 にまたがって方墳の周濠の一部が検出されました。この方墳は平成 2 年度の旧栗東町文化体育事業団が行った発掘調査で発見され、周濠の角は T 5 にかかっているマンホールを建設する際に滋賀県教育委員会が行った調査で確認されています。これらと今回の成果によると 2 号墳の一边はだいたい 20 m 程度になると思われます。

周濠からは円筒埴輪の破片が大量に出土したほか、きぬがさ形の形象埴輪片も確認されています。また、平成 2 年度の調査ではにわとり形埴輪の頭部が出土しています。詳しくはさらに検討する必要がありますが、5 世紀前葉に築造された地山古墳とはあまり隔たりなく築造されたようです。

古墳時代後期の古墳(?)

T 6 で検出された地山古墳群 2 号墳から約 10 m 離れたところから弧状の溝が検出されました。溝の内部からは須恵器の無蓋高杯、平瓶、ハソウ、大甕が出土しました。これらは古墳の副葬品に似た構成であることから、この

溝は円墳の周濠と思われます。その中央には小さな石室があった可能性があり、溝内に埋もれていた大型石はその転落石かもしれません。土器の年代から、栗太郡衙の建造の数十年前に築造されたこととなります。

栗太郡衙関連の建物跡

T1とT3～T5から9棟の掘立柱建物跡が検出されました。このなかには、建物の方向が郡衙の中心建物と近いものが含まれていること、そして付近から出土した土器の年代が郡衙跡出土のものとはほぼ一致することから、栗太郡衙に関連する建物跡と考えられます。

土器埋納土坑

T4からは土師器の杯(つき)を埋納した土坑が10基ほど見つかりました。それぞれの土坑には1枚から十数枚の杯が出土し、そのうちの1基には頸を割りとった施釉壺も出土しました。土器の年代によればこれらは平安時代中ごろのものです。出土状況から、杯はそのままの形で土坑に埋納されていたと考えられます。民俗例には祭祀や儀式に一度使用した杯をそのまま投棄する例があり、この土器も祭祀や儀礼に供されたものと考えられます。

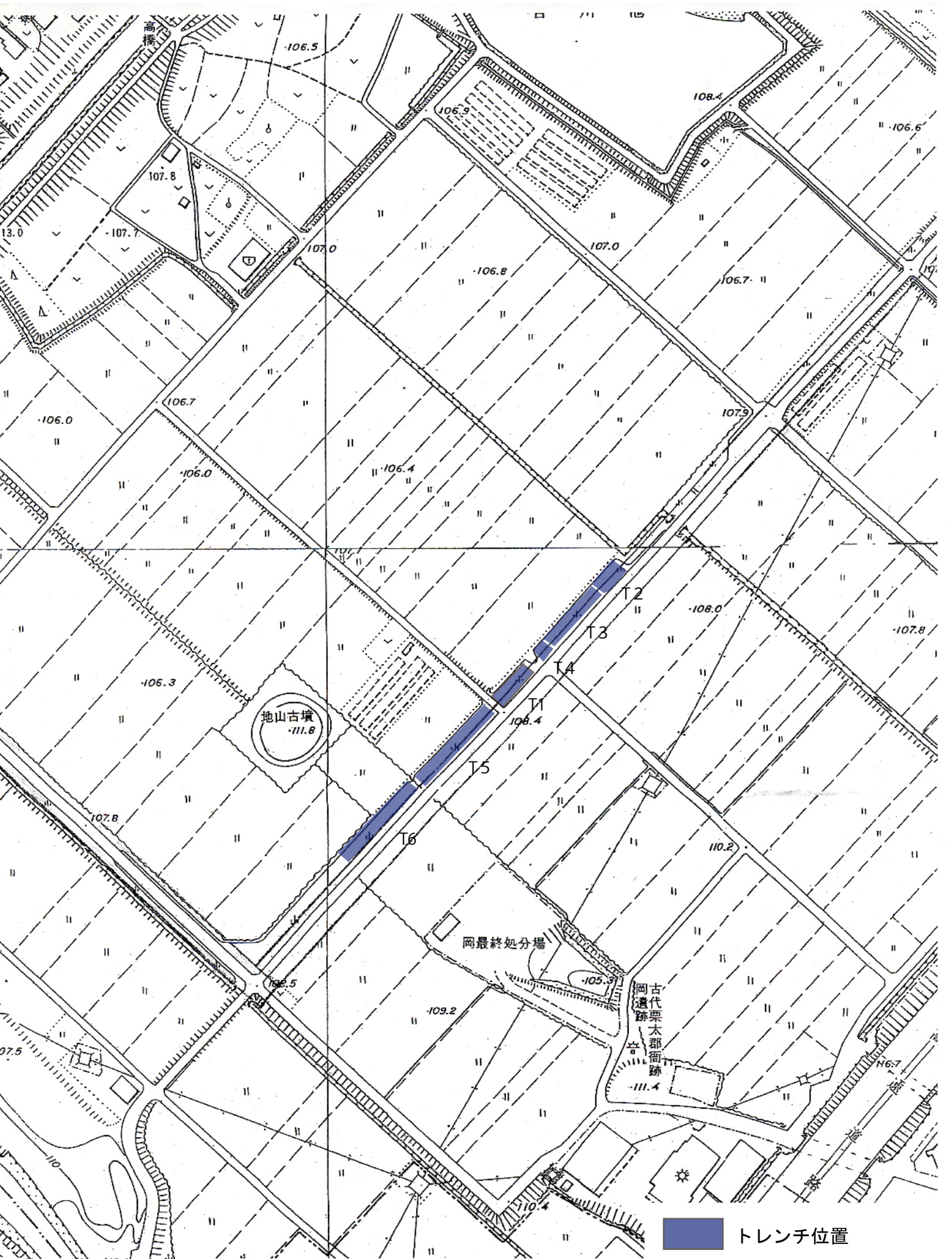
戦国時代の水田跡

T6は南西方向へ低くなっていますが、その低くなったところから水田と大畦畔が検出されました。およそ南北方向に伸びる大畦畔の幅は1mで、その両側に水田跡が広がっています。東側の水田跡には、幅40～80cmの小畦畔が付属していました。耕作土の下から出土した信楽焼すり鉢や瀬戸焼天目茶碗から、16世紀前半の水田跡と考えられます。この水田は旧河道の低地を水田化したものです。

4. まとめ

今回の調査地は南東から北西方向に伸びる微高地にあたります。調査トレンチはこの微高地を横断して設定しており、中央部の高みには古墳や建物跡が集中し、両端の低地では遺構が少なくなっていました。冒頭で紹介した地山古墳・下戸山古墳・栗太郡衙中心部・小槻大社は、この微高地の高みにそって並んでいます。

古代にこの地で勢力を張った小槻山君は宮廷に采女を出しており、栗太郡の長(郡司)を務めた氏族と考えられます。また、小槻大社が存在するこの地に展開した地山古墳・下戸山古墳などの首長墓は、小槻氏の歴代当主の墓である可能性が高いと思われ、古墳時代から古代まで、小槻氏の遺跡が連続と続いていることとなります。今回の成果は古代栗太郡の中心地のようにすを解明する重要な資料となるでしょう。



岡遺跡発掘調査地位置図 (S= 1 / 2, 500)

